

復興「ありがとう」ホストタウン 概要

- 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局は、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の自治体に対し、これまで支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行うホストタウンを「復興『ありがとう』ホストタウン」として新設し、2020年に向けた交流を全面的に支援する。

復興「ありがとう」ホストタウンの取組

交流相手の主体を「被災時等に支援してくれた方々」も

被災時に現場に入って支援してくれた各国のレスキュー隊員や、支援物資等を送ってくれた方々など、復興に貢献頂いた方々を被災地に招いた交流を行う。

交流を機に「復興プロセスの発信」を

交流の機会に復興のプロセスの説明や、各地の被災地ツアーの参加などを行い、被災地の過去と現在の紹介を実施する。

東京大会開催後の大会関係者との交流を重視

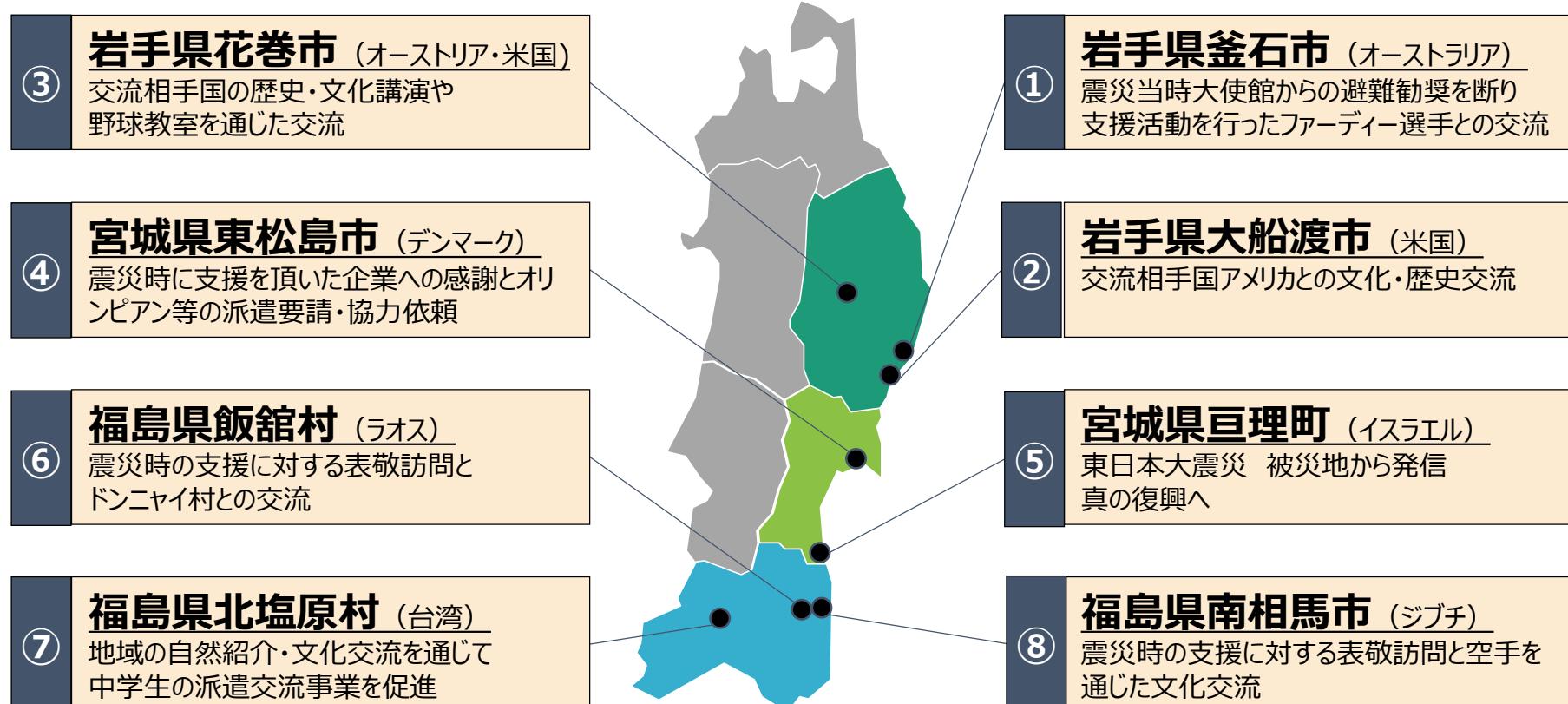
2020年の東京大会の競技終了後に、相手国・地域の選手等とリラックスした状況での交流を重視する。

復興「ありがとう」ホストタウン

2017年度調査対象プロジェクト実施自治体

- 2017年度には岩手県3自治体（釜石市、大船渡市、花巻市）、宮城県2自治体（東松島市、亘理町）、福島県3自治体（飯舘村、北塩原村、南相馬市）の計8自治体が調査対象プロジェクトを実施した。

2017年度調査対象プロジェクト実施自治体一覧



凡例

自治体名 (調査対象プロジェクトにおける受入国)
調査対象プロジェクト概要

震災当時大使館からの避難勧奨を断り支援活動を行ったファーディー選手との交流

①岩手県釜石市 - ファーディー選手の招へい -

- 震災時、救援物資の運搬などに奔走したオーストラリア人ラグビー選手のスコット・ファーディー選手を招へいした。(2018年3月12・13日)
- ファーディー氏は、2009年から釜石シーウェイブズRFCに所属、震災時、大使館からの退避勧奨を断って釜石に残り支援活動に従事。帰国後、代表として2015年ラグビーワールドカップ(RWC)に出場。
- 小佐野小学生とタグラグビーで交流、釜石高校・釜石商工ラグビー部との練習会で熱心にラグビーを指導。復興する市内やRWC2019会場の鵜住居復興スタジアム（仮称）建設現場などを視察し、「おかえりファーディー」と銘打った市民懇談会で講演。「日本、釜石は、第二の故郷。ここまで町が復興したのを見てうれしい。さらに良くなっていくことを確信している」とコメント。

The collage consists of six photographs:

- Top-left: A man in a grey hoodie and blue pants is crouching on a grassy field, interacting with two young boys in red and blue sports uniforms.
- Top-middle: A group of children in colorful tracksuits are playing tag rugby on an indoor basketball court. A man in a black hoodie is visible in the background.
- Top-right: A large group photo of a community meeting. A banner in the background reads "市民懇談会「おかえりファーディー」" (Community Meeting 'Welcome Home Scott Fardy!'), "Welcome Home Scott Fardy!", "おかえりファーディー！", and "釜石ラグビータウンミーティング".
- Bottom-left: A group photo of a youth rugby team in red jerseys with their coach, a man with a beard in a grey hoodie.
- Bottom-middle: A man in a black jacket is taking a photograph of a group of people standing near a green fence. A yellow banner is visible in the background.
- Bottom-right: A video frame showing a man in a suit and tie speaking. The background features the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games logo.

本件の問い合わせ先
釜石市 生涯学習文化スポーツ課 0193-22-8835

交流相手国アメリカとの文化・歴史交流

②岩手県大船渡市 - トークセッションの開催と米国救助隊の受入 -

- 被災当時、当市内で行方不明者の捜索救助活動に携わられた米国救助隊員2名を招待し、市民らも参加しての歓迎セレモニーを行い、7年前の協力や支援に改めて感謝の意を伝えた。
- また、被災直後から大きく様変わりした市街地を視察していただくとともに、消防署員をはじめ、市民との交流を深めた。（2018年3月11～13日）
- 市教育委員会が主催する「大船渡市生涯学習推進のつどい」に、在札幌米国総領事館ハービー・ビーズリー広報文化交流担当領事を迎え「これからの国際交流」と題するトークセッションを開催、交流相手国であるアメリカ合衆国の文化・歴史を市民に広く身近に感じてもらうとともに、今後の交流にむけて取り組むべき課題等を共有した。（2018年2月23日）

歓迎セレモニー



地元消防署員との交流



大船渡市生涯学習推進のつどい



地元高校生との文化交流



和装での茶道体験



トークセッション「これからの国際交流」



本件の問い合わせ先

大船渡市教育委員会生涯学習課 0192-27-3111

交流相手国の歴史・文化講演や野球教室を通じた交流

③岩手県花巻市 - 講演会及び野球教室の開催 -

- オーストリア大使館参事官サウペ氏による講演会を大迫中学校（生徒104名）と大迫ふるさとセンターで開催し、オーストリアの歴史や文化への理解と関心を深めた。大迫中学校での講演後、中学生たちによるオーストリアに縁のある合唱曲をプレゼントした。（2018年2月27日）
- さらに、東日本大震災時帰国せずに復興支援活動に当たられたラズナー氏による野球教室を開催し、震災時に甚大な被害を受けた大槌町出身の小学生は「震災の時にお世話になったアメリカの皆さんにありがとうと言いたい。今日教わったことを試合で生かしたい」と感謝の言葉を伝えた。（2018年3月4日）

サウペ氏による講演



ラズナー氏の救援活動や想いを伝えるボード



感謝を伝える小学生



サプライズで合唱曲をプレゼント



ラズナー氏を招いた野球教室



ラズナー氏への沢山の質問



本件の問い合わせ先
花巻市 国際交流室 0198-24-2111

震災時にご支援を頂いた企業への感謝とオリンピアン等の派遣要請及び協力依頼

④宮城県東松島市 - デンマーク王国訪問 -

- 市長及び市職員 2 名がオリンピック委員会、各種スポーツ協会を訪問し、大会後の選手派遣要請や交流事業への協力を依頼。滞在期間中にはフレデリック皇太子に謁見し、震災時の支援に対する謝意を伝えた。（2018年1月15日～20日）
- また、被災時にご支援をいただいた企業等に対し、東松島市として感謝の意を伝え、復興の状況を報告した。企業からは「寄付したお金がどのように復興に使われているのか、直接聞くことができ良かった」というコメントを頂戴した。

バドミントン協会へ表敬訪問



オリンピック委員会へ表敬訪問



ハンドボール協会へ表敬訪問



ノボ・ノルディスク社へ表敬訪問



ロラン市長へ表敬訪問



マースク社へ表敬訪問

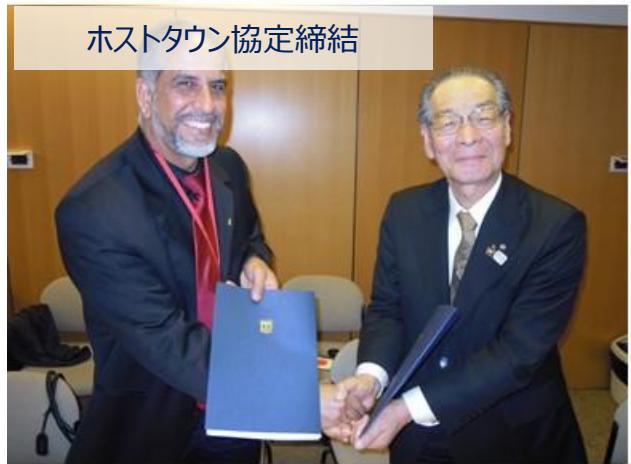


本件の問い合わせ先
東松島市 生涯学習課 0225-82-1111

東日本大震災 被災地から発信 真の復興へ ⑤宮城県亘理町 - 多様な連携の輪による交流事業 -

- 町長及び町職員等4名がイスラエルを訪問し、東日本大震災被災時から今日まで復興支援をいただいたイスラエル政府及び元駐日大使、心に傷を負った子どもたちのケアをしていただいたイスラエル人精神科医等に対し、町長より御礼を申し上げるとともに、訪問前に亘理町で撮影した地域住民によるメッセージVTRを視聴していただき、感謝の意を伝えた。併せて2020年東京オリンピック大会に向け、町への訪問や町民との交流について、協定締結及び要請を行った。（2018年2月10日～12日）

ホストタウン協定締結



外務省・文化スポーツ省に表敬訪問



訪問前に亘理町で撮影した感謝を伝える
メッセージVTRを視聴するエリ・コヘン元駐
日大使



オリンピック委員会訪問



富田大使・エリ元駐日大使・ロニ
東京オリンピック親善大使と面会



精神科医との再会



本件の問い合わせ先
亘理町 企画財政課 0223-34-0525

震災時の支援に対する表敬訪問とドンニヤイ村との交流

⑥福島県飯舘村 - ラオス人民民主共和国への訪問 -

- 2010年「ラオスに学校を贈ろう」プロジェクトを契機に交流が始まったラオスへ表敬訪問を実施した。
(2018年2月5日~8日)
- 滞在期間中には、震災時に支援をしてくれたドンニヤイ村に対して、支援の御礼を伝えた。
ドンニヤイ村とは継続的な交流事業を実施していたものの、直接の訪問ができていなかったため、今回の調査対象プロジェクトが、交流を活性化させるきっかけとなった。
- また、中学校の思い出を1枚のポスターで表現する「中学生向けメディアクリエーター講座」を開催した。作成したポスターをラオスの中学校に送り、日本の中学校生活の様子を伝えた。
(2018年1月30日~3月5日)

ドンニヤイ村での交流



ドンニヤイ村での歓迎



スポーツ省への表敬訪問



中学生向け講座の様子



ドンニヤイ村での交流



本件の問い合わせ先
飯舘村 総務課企画係 0244-42-1613

地域の自然紹介・文化交流を通じて中学生の派遣交流事業を促進

⑦福島県北塩原村 - 台湾視察団の受け入れ -

- 中学生台湾派遣交流事業の充実を図るため、台湾の教育関係者を北塩原村に招いた。
(2018年1月31日～2月3日)
- 村内小中学校の授業観察や給食体験、北塩原村の自然、文化などを紹介した。また、今後の中学生の交流事業の充実についての意見交換を実施した。
- 調査対象プロジェクトで訪問した先生方に、震災後の台湾からの支援に対する謝意を伝えた。台湾の先生からは、「北塩原村の自然は素晴らしい、台湾の子どもたちにも是非体験してもらいたい」というコメントがあった。

村内小中学校の授業観察



中学生の交流事業について意見交換



自然体験



抹茶体験



村内小中学校の給食体験



本件の問い合わせ先
北塩原村 総務企画課企画室 0241-23-3112

震災時の支援に対する表敬訪問と空手を通じた文化交流

⑧福島県南相馬市 - ジブチ共和国への訪問 -

- 震災時の支援に対する謝意を示すために、ジブチへ空手講師を派遣した。（2018年2月11日～14日）
- 現地の子どもたちに、空手指導や南相馬市の文化紹介を行った。参加した子どもたちから、南相馬市を訪問したいという発言があるなど、南相馬市の文化・魅力を十分に発信することができた。
- 現地では、関係省庁へ復興状況や支援に対する感謝の気持ちを伝え、また、オリンピック委員会に対しては事前キャンプ実現を働きかけ、交流実現のための協力関係を築くことができた。



スポーツ庁長官への表敬訪問



外務・国際協力省次官への
表敬訪問



言葉や流派を超えた空手交流



中学校での南相馬市の文化紹介

300人の生徒や保護者が参加した屋外練習会



本件の問い合わせ先

南相馬市 市民生活部文化スポーツ課 0244-24-5219